

## 第1回タウンミーティング プロローグ

みなさん、『かわいのまちの夢ビジョン』は、ご存じでしょうか。

【活気】【絆】【誇り】【魅力】【自立】を目標・想いとして、人口減少対策も含め、常に20年先の河合町の未来を見据えた羅針盤です。

では、『地方創生』『総合戦略』は、ご存じでしょうか。

これらは、平成26年5月に発表された、通称『増田レポート』をきっかけに、政府が「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、地方創生という新しい政策を掲げ2060年に1億人程度の人口を確保するという「長期ビジョン」と2019年度までの政策目標である「総合戦略」を示したのです。

この中で、国は、市町村にも5カ年の「地方版総合戦略」と「人口ビジョン」を策定することを求めました。

しかし、河合町にはすでに『夢ビジョン』がありました。

また、平成26年6月、国が創生本部を設置するのに先立って、大手住宅メーカーである、パナホーム株式会社と連携協定を結んで研究を始めた『かわい浪漫プロジェクト』がありました。

この連携協定で、河合町は、人口減少対策、ニュータウンの空き家の利活用、街再生に取り組み始めていました。

これらの取り組みの中で、浮かび上がったのは【河合町の住みやすさ】です。

みなさん、河合町の地理を思い浮かべてみてください。

近鉄の駅が町内に3つ、ニュータウン内にはターミナル駅である王寺駅とを繋ぐ路線バスが走っています。高速道路のインターチェンジがあり、幹線道路が東西、南北に通っています。イオン西大和店をはじめ、映画館、飲食店、コンビニ、ドラッグストア、さらには馬見丘陵公園などなど、生活に必要な、また、生活を潤すための施設が揃っています。また、開業医も多く、大きな病院に行っても長いあいだ待たなくても、多様な診療をしてもらえる医院や診療所にも困りません。

そこで、「河合町街再生総合戦略」では、河合町の住みやすさを積極的にプロモーションし“そうだ、やっぱり河合で暮らそう！”をキャッチフレーズに、特に若い世代・子育て世代の「定住・Uターン」を戦略の中心とし、まちの活性化に繋げていこうと考えました。

もちろん、女性目線での「あったらいいな」も忘れていません。

このような町の現状を踏まえつつ、まちの活性化にいかに取り組んでいくのかを、町長みずからお話します。

河合町の明るい未来を、本日ご参集の皆さんとともに創り上げていきたいと思っています。

私たちは、立ち止まりません。チャレンジします。